

第9節 環境教育・環境学習の推進

八王子は市域が186km²と広大なため、地域によって環境の現況や課題が異なることから、地域ごとの環境保全活動が重要となってきます。

また、今日の環境問題を解決していくためには、一人ひとりが環境問題に関心を持ち、環境保全に対する意識を高め、環境に配慮した行動を心がけるとともに、できるだけ環境に負荷をかけない生活をしていくことが必要です。

更に、このような生活様式・習慣を身につけるためには、幼い頃からの自然体験や環境学習などが重要となるため、地域に根ざした環境教育・環境学習を推進するとともに、環境市民会議などの活動を支援する人材を育成し、活動拠点を整備しました。

環境教育・環境学習は、地域住民が一体となって環境への取り組みを推進するための基盤となる取り組みです。

主な目標

- ・ 育成した人材の活動拠点の拡充 対象事業：1.(2)
- ・ 自然体験学習イベント及び市民・事業者向け環境講座の充実 対象事業：1.(3)
- ・ 環境教育モデル校での環境教育の実施 対象事業：2.(1)
- ・ 副読本等教材の充実 対象事業：2.(2)

1. 地域における環境学習の推進

(1) 人材育成と環境指標

ア. 環境学習リーダーの養成

自発的に環境保全活動に取り組む環境市民会議の活動を適切に支援する人材として、14年度から環境学習リーダーを養成しています。18年度に認定者総数が113名となり、当初目標である100名の養成を達成したため、現在は、隔年実施しており、19年度は休講しました。

イ. 環境診断士の養成と環境指標「ちえっくどう」の普及活用



「ちえっくどう」を体験中
(環境フェスティバル)

市民・事業者が自ら環境について調べ、行動していくための手引書である環境指標「ちえっくどう」を用いて環境診断を実施する際に適切に、指導・助言ができるとともに、環境市民会議のメンバーとして地域の環境保全活動を行い、専門的にアドバイスできる人材として14年度から環境診断士を養成しています。17年度に認定者総数が105名となり、当初目標の100名の養成を達成したため、18・19年度は、講座を休講しています。

また、「ちえっくどう」を使用した地域の環境診断は、環境市民会議が自然体験講座などで実施したほか、環境フェスティバルにおいて、268名もの方に体験していただきました。

(2) 環境学習室「エコひろば」の拡充



古布で作る
「ぞうり教室」の様子

となりました。

また、より多くの方に「エコひろば」を知ってもらえるように、「エコひろば」で行っている講座の案内や、学校や環境保全活動団体などが野外などで行う環境教育・環境学習に貸出し可能な物品や図書のリストなど様々な情報提供を行うホームページを20年2月に開設しました。

環境学習・リサイクル推進協議会が運営する環境学習室「エコひろば」は、市民・事業者が環境について関心を持つきっかけづくりと、環境保全活動団体などが、地域に根ざした活動を展開するための活動拠点です。

「エコひろば」では、小学校などの見学や利用者の相談などに対応するとともに、協議会主催による市民や事業者が講師として登壇する環境啓発講座などが実施されたことにより、利用者は年間8,342名となり、前年比約106%増

(3) 環境講座・啓発活動の展開

環境保全への意識の高揚を図るため、自然体験学習の一環として「水辺のかんきょう教室」、「八王子浅川ガサガサ探検隊」、「浅川の上流を見に行こう」を浅川で開催し、計309名の小学生などが水生生物の観察などを行い、水辺環境について学習しました。



ガサガサ探検隊の様子
(浅川)

また、企業、環境保全活動団体、環境市民会議、大学及び市の協働のもと、市民一人ひとりの環境に対する意識の高揚を図り、環境保全を推進することを目的に「環境フェスティバル」を6月9日に、八王子駅北口において開催し、延べ3万5千人もの参加者でにぎわいました。

そのほか、小・中学校における総合的な学習の時間や市民主催の学習会などに市の職員が講師として出向く「はちおうじ出前講座」として、「八王子の環境」、「自然は友だち」、「ごみの減量とリサイクル」など6講座を開講し、環境教育・環境学習を支援し、環境意識の向上を図っています。

主な出前講座（環境分野）一覧

講座名	内容	参加人数
八王子の環境	大気環境及び河川の水質について説明	696名
自然は友だち	本市のみどりや本市に生息・生育する動植物を紹介し、みどりを守ることの大切さと、身近なみどりの抱える問題をわかりやすく説明	115名
ごみの減量とリサイクル	ごみ・資源物の分別・発生抑制について説明及びビデオ放映	2,520名

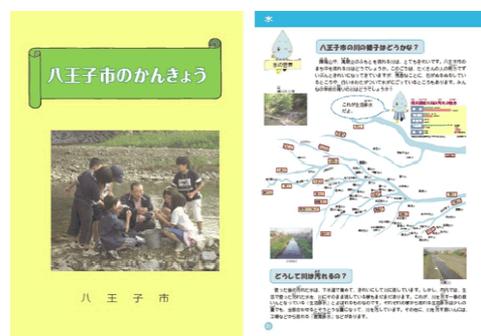
2. 環境教育の充実

(1) 「学校教育における環境教育基本方針」に基づく取り組み

学校教育における環境教育を一層推進するため、「学校教育における八王子市環境教育基本方針」を策定し、17年6月に公表しました。この基本方針は、子どもたちが身近な環境とのふれあいから環境に関心をもち、自然を大切にする心を育むことにより、主体的に環境に関する問題を解決できる行動力をもった人になるよう育成することを目標としています。この目標を実現させるための取り組みとして、19年度は18年度に引き続き、環境教育モデル校4校（小宮小学校、美山小学校、南大沢小学校及び浅川中学校）で環境教育の研究を行うとともに、2年間研究した成果を発表し市内各小・中学校に広めました。20年度からは全校において、環境教育全体計画を策定して、環境教育の実践を行っていきます。

(2) 環境教育副読本の作成

基本方針における環境教育目標である「環境問題に関心を持ち、環境問題を解決する行動力をもった人の育成」を実現するため、より幅広い環境について学べる環境教育副読本『八王子市のかんきょう』の初版を20年3月に発行し、小学4年生に配布しました。分野を「緑」「資源」「水」「大気」とし、各学校の地域特性にあった学習が行えるようになっているとともに、学習の案内を行うキャラクターを作成し、児童が学習に親しみやすいよう工夫しています。



「八王子市のかんきょう」

また、ごみ減量・リサイクルの意識を育てるため、小学校の社会科副読本として「きれいなまち八王子」を作成するとともに、川への関心を高めるために「川と友だちになるノート」も作成し、毎年小学4年生に配布しています。学校ではこれらの副読本を活用し、環境教育の充実を図っています。

(3) 地域との連携による環境教育

小・中学校において、総合的な学習の時間などを使って行われる八王子の地域特性を活かした環境学習に、地域における環境保全活動の経験や知識を持った環境学習リーダーや環境診断士などを紹介する環境教育支援事業を「エコひろば」において行いました。19年度は6校に対し、延べ139名の支援者が浅川、多摩川や初沢山などで行われた体験学習や酸性雨の調査、透視度計づくりなどに携わりました。今後も、地域と連携した環境教育の推進を図っていきます。



多摩川での体験学習
(小宮小学校)



植物の観察
(浅川小学校)

3 . 環境情報の提供

(1)「環境白書」の発行

環境保全等に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、毎年、市の環境の現状及び環境基本計画に基づく施策の実施状況を点検・評価し、明らかにした「八王子市環境白書」を発行しました。

また、市の環境の現状に関するデータは、別冊のデータ集としてまとめました。

(2)「環境報告書」の発行

八王子市内にある5ヶ所の清掃施設について、事業活動における環境配慮の取り組み状況に関する説明責任を果たすために、環境配慮の方針、目標、取り組み内容、実績を公表しました。

(3)ホームページによる環境情報発信

八王子市のホームページ(<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/>)において、環境情報を提供しています。

(4)「エコひろば」ホームページの開設

「エコひろば」では、ホームページ(<http://www.ecohiroba.jp/>)を開設し、講座の実施予定や環境教育支援事業の状況など環境教育・環境学習の情報を中心に情報提供を行っています。

4 . 評 価

環境基本計画における5つの重点取り組みの内「環境教育・環境学習」の分野について、3段階からなる評価を行いました。また、市の内部評価及び環境推進会議における市民との相互の評価は以下のとおりです。(評価の手法については15ページ参照)

評価 :

<市の内部評価>

環境教育基本方針に基づくモデル校4校の環境教育を2年間実施してきた結果、全校が環境教育を位置付け、年間計画を立てたことは高く評価できる。「八王子市のかんきょう」の副読本の発行にあたっては、児童が親しみやすいように工夫したことや、教員用には「指導の手引き」を発行し、教員にも使いやすい工夫をしたことなど、その成果は大きいと考える。また、自然体験講座や水辺のかんきょう教室、農業体験など、自然体験学習については、参加者数から見ても、継続的かつ積極的に進めること。

<環境推進会議での評価>

モデル校による環境教育を着実にやってきた結果、全校での環境教育の実施に至ったことは、大きな成果であり、今後も推進してほしい。

副読本では創意工夫したことで、教員も児童も使いやすくなったことは大きな成果と認められる。今後も、副読本の普及に努めてほしい。

また、体験学習については、年を重ねるごとに、内容も充実し、参加者も増えていることから、継続推進してほしい。